

（議事要旨）サステナビリティ基準委員会の活動状況について

サステナビリティ基準委員会（SSBJ）の川西委員長より、SSBJ の活動状況について説明が行われた。これについて、サステナビリティ基準諮問会議の複数の委員から、2025 年 3 月に SSBJ から確定基準が公表されたことへの謝意が述べられた。また、次に関する質疑が行われ、川西委員長及び金融庁企画市場局企業開示課 定本課長補佐より回答が行われた。

- サステナビリティ開示基準の開発及び開示の制度を巡る国際的な動向
- SSBJ 基準が公表された後の対応に関して、SSBJ が行う開示実務のモニタリング結果の利用方法
- SSBJ 基準公表後の有価証券報告書のレビューのあり方
- SSBJ が公表を準備している補足文書及びハンドブックの概要、公表時期の目安

その他、サステナビリティ基準諮問会議の委員より、次の意見が聞かれた。

- SSBJ 基準が公表された後の対応に関して、実務への適用に対応する結果、SSBJ 基準に基づく開示が国際的な水準を下回ることは避けるように留意して欲しい。
- 新基準の検討について、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の動向をフォローし SSBJ が対応を進めることに賛同する。先日、ISSB の関係者とコミュニケーションをとった中で、リサーチのテーマとされている生物多様性、人的資本の開示について、機関投資家の立場としては国際的に整合性のある基準ができることには前向きであることを伝えており、紹介させていただく。
- SSBJ 基準の公表は日本だけでなくグローバルにも意義深い成果であると認識している。そうした中で、SSBJ 基準は海外の関係者との間のコミュニケーションに役立つと考えられるために、英訳を進めることを要望したい。
- 企業にとって過度な負担になるような、行き過ぎた開示にならないようにモニタリングをお願いしたい。
- 現行の「企業内容等の開示に関する内閣府令」では、SSBJ 基準において具体的に定められていない人的資本等に関する個別の指標の開示が有価証券報告書において要求されているが、将来的には SSBJ 基準の開発の中でそれらの指標に関する議論が行われるように一本化していくべきと考える。
- SSBJ 基準は国際的な比較可能性と我が国での実情に配慮したバランスのとれた基準となっていると考えており、適用に向けた SSBJ の支援に期待する。今後の ISSB 基準の改訂

を踏まえた対応など積み残しの課題がある中、ファイナンスド・エミッション等の開示のあり方について高い関心を持っており、関係者の意見を聞いて対応を進めて欲しい。

以 上